

講習会名 にいがた摂食・嚥下障害サポート研究会講演会
新潟大学大学院医歯学総合研究科 共催
一般社団法人 新潟県歯科衛生士会 後援
新潟県言語聴覚士会 後援

日 時 6月30日（日） 午後1時から4時

場 所 新潟大学 有壬記念館

参加者数 82名

参加企業 8社

概 要

本講演会では、医師、看護師、歯科医師の先生方にお集まりいただき、それぞれ専門のお立場から「摂食・嚥下リハビリテーションについて考える」というテーマに沿って講演いただいた。

一心病院重栖由美子先生は、同院における摂食・嚥下リハビリテーション外来の立ち上げの経緯から現在の臨床体系を作り上げるまでの苦勞、日本大学などとの連携によって少ない人数でどのような工夫をして患者さんのサポートに携わっているかについてお話しいただいた。

木戸寿明先生は、開業歯科医として施設訪問診療をする中で、ご自身の専門である義歯と摂食機能との関係、さらには口腔だけではなく、身体機能・体幹機能と嚥下機能との関係についての独自の視点や、これからの高齢者医療にとって欠かせない認知症と嚥下機能との結びつきを考えることが大切であるとの示唆をいただいた。

30分の休憩時間の中では、フロアにて今回ご協力いただいたそれぞれの企業からのサンプル紹介や説明があり活気を呈した。

中山先生には、ご自身の専門である呼吸機能と嚥下機能との関係についての基礎を講義いただいた後に、呼吸器疾患と嚥下機能の障害に対してこれまで得られている知見も踏まえて多くの臨床研究の紹介や説明をいただいた。

最後の総合討論では、リハビリテーション医や開業医、歯科医などから連携の在り方や診断に基づく臨床の方向性に関する多くの質問がなされた。

※別紙にアンケート結果を掲載

参加者によるアンケート結果（有効回答数 57 名）

1. 参加者の性別

男性 19 名 女性 36 名 不明 2 名

2. 参加者の年齢層

～19 歳 0 名 20～29 歳 10 名 30～39 歳 14 名 40～49 歳 16 名
50～59 歳 13 名 60～69 歳 4 名 70 歳以上 0 名

3. 参加者の職業

学生 6 名 会社員・公務員 45 名 医療関係者 5 名 その他 1 名

4. 今回の講演は有意義なものでしたか。

まったくそう思う 54% まあまあそう思う 46% どちらともいえない他 0%

5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか。

まったくそう思う 51% まあまあそう思う 47%
どちらともいえない 2% あまりそう思わない他 0%

6. 講演内容の難易をどう感じましたか。

非常に分かりやすかった 58% 分かりやすかった 35%
どちらともいえない 7% あまり分かりやすくなかった他 0%

7. 今後このような主旨の講演会を開催することについては

非常に賛成 82% 賛成 16% どちらともいえない 0% あまり賛成しない 2%

8. その他の意見

嚥下サポートチームの立ち上げに取り組んでおり、重栖先生の活動が非常に参考になった。

歯科医として木戸先生のお話がとても興味深かった。

日曜開催はありがたいです。

低栄養リハと関連付けた研修会を希望します。日々の臨床で自問しながら行っており、裏付ける資料を見つけられずにいたが、回答をいただけて感謝します。

今後も介護食の情報と合わせて嚥下リハの情報を知りたいです。

3つの専門分野の先生のお話が興味深かった。特に歯科、呼吸器科は勉強になった。

同職の重栖先生のお話が興味深かった。今後高齢者が多くなる中で、新潟でも一心病院のような摂食リハに力を入れているところが増えてほしいと思いました。

特養の栄養士ですが、食形態の決定はNS、介護、栄養士のみで決定しており、医師は月一回しか参加しない中で、この形態でよいのか迷いが生じる。食形態の決定のコツがあれば教えて欲しい。

当日の詳細なタイムスケジュール（講演順、時間）をHP上に掲載していただけるとありがたい。

呼吸器の観点からのお話は興味深かった。食事は中越・上越・佐渡のレストラン等にも声掛けし、賛同募ってみては？

重栖先生・木戸先生の講話の中で、食形態「きざみ・極きざみ」という形態が根強く残っていること残念に思った。栄養士の不勉強もあるかと思う。咀嚼・嚥下機能とリハだけではなく、そこに準ずる食形態も重要なので、食形態について講演開催を望みます。食べさせてみてOKというのが食形態決定の現状なので、VF・VEに頼らず、在宅に関わるヘルパー等でも見極められるポイントが知りたい。

木戸先生の義歯作成への考え方が参考になった。呼吸器の内容も大変参考になった。

チーム医療の大切さ、嚥下リハがよくわかった。現場の声やQAがもっとあると良い。

ST, PT, OTの話ききたい。

「在宅での嚥下不良の患者さんへのアプローチ等」をテーマとして聴きたい。

講演会風景

